

クロマツ探検隊Ⅱ

7月8日(金)、みどりの保育園第6回「クロマツ探検隊Ⅱ」を開催しました。

当日は、この日を楽しみにしていた園児達の願いが届いたのか、前日まで梅雨空が続き朝方まで降っていた雨もおさまり、少し蒸し暑い位の天気になりました。

今回は、年長組園児25名、保育園先生4名、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター2名、庄内森林管理署1名、万里の松原に親しむ会4名、総勢36名の参加者です。

先ず保育園で出発式を行い、園児達が探検隊のルールについて学び、探検隊の隊長に保育園の先生、隊長補佐に朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター及び庄内森林管理署職員、万里の松原に親しむ会の会員、隊員には園児の皆さんが任命されました。そして、隊長の号令を合図に保育園のバスに乗り込み、最初の探検地である「万里の松原」に向かいました。

ここでは、松林の保全活動を行っている森林ボランティア団体「万里の松原に親しむ会」の三沢会長と会員の方々が隊員たちを温かく出迎えてくれました。三沢会長から、万里の松原の歴史や保全活動についてわかりやすく説明をしていただき、隊員達は、「ここは昔、砂丘だったこと」、「ここにあるクロマツは全て人の手で植えたもので、250年もの年月が経っていること」などを聞いて驚いていました。その後、万里の松原歴史看板の前で記念撮影を行い、三沢会長の案内で万里の松原の中を歩いて探検しました。隊員達はここでも、保育園の隣にある身近な「しんちゃん森」のクロマツよりも太く、高い木を見て驚いていました。また、旧秋田街道では、「万里の松原に親しむ会」の方々がボランティアで整備したウッドチップを敷いた歩道の上を歩き、ぷくぷくとした柔らかく、自然な感触を楽しみ、隊員たちの賑やかな声がクロマツ林の中に響いていました。「万里の松原」の探検終了後、次の探検場所、酒田北港緑地展望台にバスで向かいました。

この展望台は7階の高さにあり、酒田の町・海・林をぐるっと見渡すことができますが、庄内海岸林を眺めた隊員たちは、クロマツ林の陰に隠れて、酒田市の町並みや西荒瀬保育園が見えないと感想を話してくれました。当センターの職員から、このように町並みや保育園が見えないくらいクロマツ林がいっぱいあるので、「海から吹いてくる風や飛んでくる砂(飛砂)、水害などから酒田市民の生活を守ってくれていること」、「市民の生活様式の変化により、クロマツ林に人の手が入らなくなっていること」、「マツクイムシの発生等により、クロマツ林を脅かしていること」、「国、県、市などの行政機関も一生懸命にクロマツ林を守っているが、森林ボランティア団体等の地域の皆さんの活動がなければ十分にクロマツ林を守ることができないこと」を隊員の皆さんに説明し、本日の目的の一つである「地域の森林とその保全」について、少し理解が深まったと思います。これらのクロマツ林が、地域の皆さんの生活に必要なことを改めて解ってもらえたと期待して、本日の「クロマツ探検隊Ⅱ」を終了しました。

